

巡回監査体制再構築プロジェクトを受講して決意したこと

広報委員長 梅川 大輔

2021年7月26日、生涯研修開講式及び巡回監査体制再構築プロジェクトの研修会が開催されました。佐藤会長の挨拶（第30期基本方針演説）、杉本研修委員長の挨拶と依頼事項（巡回監査士合格、生涯研修履修54時間達成、新月プログラム・クレセントアカデミーへの参加）に続いて、巡回監査体制再構築プロジェクトの研修会です。

巡回監査体制再構築プロジェクトは第30期の目玉施策ではないかと勝手に考えています。研修会は二部構成（第一部：寺本副会長の理念研修、第二部：パネルディスカッション）でした。

■ 第一部 寺本副会長の巡回監査理念研修

久しぶりの講演ということでしたが、絶対に何十回と話したネタですね。面白い話が終わらない。巡回監査に対する深い知識と現場の豊富な経験がミックスされた受講生に考えさせる深い話です。【5W1H】で話を整理すると理解しやすいのですが、巡回監査はこんなイメージでしょうか。



寺本 和生先生

- Who：巡回監査は誰がするのか？
- When：巡回監査をいつするのか？
- Where：巡回監査をどこで行うのか？
- What：巡回監査とはなにか？
- Why：巡回監査をなぜするのか？
- How：巡回監査をどうやってするのか？

所長が「巡回監査をするぞ!」と意思決定するためには【What：巡回監査とはなにか?】と【Why：巡回監査をなぜするのか?】が大切だと話されているように感じました。

What：巡回監査とはなにか？

行動基準書には、「巡回監査とは関与先を毎月及び期末決算時に巡回し、会計資料並びに会計記録の適法性、正確性及び適時性を確保するため、会計事実の真実性、実在性、網羅性を確かめ、かつ指導することである」と明記されています。文章や法律は間を割愛して読むと分かりやすいとよく言われます。つまり「巡回監査 = 関与先（経営者）を指導すること」です。

Why：巡回監査をなぜするのか？

本当に関与先の発展を願うのであれば、『会計で会社を強くする』ことが第一歩です。会計帳簿に証拠力が認められているのであれば、自社で会計帳簿を作成できることは会社としての必須条件です。会社としてのその仕組みを構築するサポートこそが税理士事務所の本来的な業務なのだと寺本副会長は力説されました。

でも会社・経営者の弱い存在です。外部監査機関である税理士事務所が『経営者の心にベルトをかける』こそ関与先に期待されているのではないでしょうか。翻って自分はどうか?と胸に手を当ててみると、確かに弱い。。。高級食パンよりやわらかい。いや、メンタルが豆腐以下です。。。誰かにベルトをかけて欲しい。心の底から叱って欲しい。きっと同じ思いの経営者はたくさんいるはずです。

（ちなみにWhoは「所長ではなく職員さん」、Whereは「事務所ではなく関与先」、Whenは「気が向いたときではなく毎翌月」でしょうか???)

最後のHowは今後の職員さん向けの研修会で、各プロジェクトメンバから楽しい研修があることでしょ。期待しています♪

■ 第二部 パネルディスカッション

第二部はパネルディスカッションです。パネラーは、山尾秀則先生 @ 税理士法人坂本&パートナー所長（坂本TKC全国会会長事務所所長）、野垣浩先生 @ 近畿大阪会会長、佐藤正行先生 @ 近畿京滋会会長の3名です。どの事務所も、マスタ数が数百件、巡回監査率90%以上、継続MASも書面添付も企業防衛もMISもばっちり。そして職員一人あたり売上高1,400万～1,700万のモンスター事務所です。まるでこん棒しか持っていないのに、竜王かハーゴンに出会った気分です。シドーでもデスピサロでもいいです。古すぎる例えしか出てきません。。。。

昨今よく聞くキーワードに【DX】や【AI】があると思います。2021年7月16日にはDXセミナー（詳細は別コラムをご参照ください）がありましたし、新春講演会だったでしょうか「AI時代に生き残る税理士事務所」のセミナーもありました。将来的にデジタル化が進むことはあっても、アナログ化が進むことはありません。将来的にAIが作業を代行することはあっても、IT化されている業務を人間が代行することはありません。AIが組み込まれたプログラムが試算表・決算書を自動的に作成することは、それほど難しい時代ではありません。実際に仕訳入力ほとんどがFintechによって金融機関・クレジットカード会社から取得したデータを自動変換され、かなりの部分が省力化されています。以前は預金残高をあわせる監査が月次であったと記憶していますが、現在預金をあわせる監査はほぼありません。Fintechで預金残高を自動取得し自動照合していれば、預金残高があっていないことはほぼないからです。

ではほとんどの残高があっている月次巡回監査ではなにをすればいいのでしょうか？試算表を作るのが仕事だった時代から、「正しい試算表」からなにをするかが問われる時代になりました。正しい試算表があればこんなことができます。



山尾 秀則先生

経営計画・業績管理・業績検討会・経営改善・書面添付・資金繰り対策・バックオフィス業務の効率化・企業防衛・リスクマネジメント・補助金

あれ?なにか見たことあるものばかりだ。。。そう、答えはいつもTKCにあったのです。

■ 研修会を受けて決意したこと

- ① 1年かけて巡回監査体制を構築するという意思決定をする
- ② 意思決定したことを所内全体にアナウンスメントする
- ③ 所内全員で研修に参加する
- ④ 受講したプロセスから順に監査担当者1社でもいいので推進する

【研修日程予定】

所長向け：2021/11/11（木）

幹部向け：2021/11/11（木）

職員向け：2021/9/9（木）、2021/10/13（水）、2021/12/9（木）、2022/1/1（木）、2022/2/10（木）

「研修はTKCの金看板である」ことはよく聞きます。この研修を受講できたことはTKC会員の喜びであり、また今後1年かけて事務所内を巡回監査体制に移行する最大で最後の機会だと感じています。

当プロジェクトの名称は「巡回監査再構築プロジェクト」ではなく、「巡回監査'''体制'''再構築プロジェクト」です。（プロジェクトメンバから聞いたわけではないので間違っているかもしれませんが）わざわざ'''体制'''という文言を追加したのは、各担当者がそれぞれの方法で巡回監査をするという単なる部分最適解を得るためではなく、事務所全体での巡回監査体制を構築するという全体最適解（カルチャー、仕組み、システム、プロセスetc）を考えるきっかけにしたいというプロジェクトからの意思ではないかと感じています。

煉獄杏寿郎は『君が足を止めて 踞っても 時間の流れは止まってくれない 共に寄り添って悲しんではくれない』と炭治郎たちに言いました。DXもAIも待ってはくれません。変えるべきは事務所の業務体制です。変えるべきは事務所全体です。『心を燃やせ 歯を喰いしばって 前を向け』、一緒にAI時代に生き残る事務所になりましょう。

所内全員でのご参加お待ちしております。